

私の専攻する社会情報学は、一見すると名前に「情報」と付くので難しいプログラムを書いたりするのでは？と思われるがちなのですが、学習のペースとなっているのは社会学です。

大学1年生の基礎演習の授業では社会調査の基礎を教えてくださいます。

社会調査には量的調査（アンケートなど）・質的調査（インタビューなど）と種類があるのですが、これにはそれぞれセオリーがあります。このセオリーを知って調査するのと、知らないのでは調査の結果が全く違ってきます。しかし、これは本でなかなか学べるものではありません。なぜなら、個々の調査には細かな気配りが必要だからです。そうした細かい気配りを含めて、その道のプロである社会学者の先生方に直接指導してもらうことができても良かったと思っております。

その一方で、文系キャンパスには授業があまりない情報技術に関する理系知識も学んでいます。例えば、我々が普段から使っているインターネットのネットワークの仕組みや、翻訳や音声認識に用いられている自然言語処理、人工知能などです。ゼミにもよりますが、こういった情報分野で研究をしている学生もいます。私もその1人です。次に、私の所属する飯尾ゼミでの活動について紹介します。飯尾ゼミは図



ゼミで情報技術を学ぶ

書館情報学コースのゼミです。しかし、社会情報学専攻（情報コミュニケーションコース、図書館情報学コース）の学生であれば、どちらのコースであっても履修することができます。私は情報技術に関心があるのでこちらのゼミを選びました。

前期は論文を書くための必要な知識を得るために、グループで本を1冊読んで、まとめてゼミで発表するという形をとっています。私は人工知能のベースとなっている機械学習という技術について学びました。後期は個人で論文を書き進めていき、その進捗を発表するという形式です。

普段の授業時間以外でもゼミ活動をするがあります。私の行ったものの中で印象深いのは学会発表と、教授にお供してとある企業のプロジェクト

に参加したことです。

学会発表では、VR

（仮想現実）という技

術を使って、動画視聴

をどうやってより利用しやすいものにするかというテーマで論文を発表しました。とても緊張しましたが、他大の先生方や企業の方々との発表後のディスカッションによってより理解を深められたと思います。

また、ゼミの教授にお供して、とあるシステムを作るプロジェクトに参加させていただきました。学生の身分でありながら、毎回一人として会議に出席させていただいたり、新潟までヒアリングに参加したりと、なかなかできない体験をすることができました。

最後に、学生生活中のアルバイトについて書きます。大学1、2年生のころはあまりアルバイトはせず、たまに短期のアルバイトで足りなくなつた資金を補うという生活をしていました。大学3年の時に社会調査法という授業

を取っていたのですが、その授業の中で、研究所でのデータ入力アルバイトを募集しており、現在まで続けております。アルバイトでは、SPSSという分析ツールを使用しています。SPSSは大学の授業で扱っていたので、授業で行ったことを実践で身に付ける良い機会になりました。



社会調査と情報技術学ぶ ゼミ活動では貴重な体験

文学部人文社会科学科社会情報学専攻
情報コミュニケーションコース4年

九津見 真太郎 (北海道立北海道札幌北高校)



自己紹介

ボランティアから未来へ サークルきっかけに飛躍

文学部人文社会学科社会情報学専攻
図書館情報学コース3年

木村 咲月 (私立国立音楽大学附属高校)



ゼミ合宿で

「学生のうちにいろんなことを経験したほうがいい。周りからのこの言葉を受けて、思いついたのがボランティアです。」

私は、恥ずかしながら大学生になるまで、地域のコミュニティー以外でボランティア活動をしたことがありませんでした。そのため、ボランティアを始めようと思った時、個人で参加するのはとても勇気がいるし、そもそもどうやって活動に参加できるのかが分からませんでした。そこで私は、「青い鳥」という中央大学公認のボランティアサークルを通して活動を始めました。その活動内容として、毎週1回、知的障害者施設で知的障害児を対象に一緒に遊んだり、散歩や歩行訓練の付き添いを行ったりしています。これまでの生活で知的障害者の方々と関わるのがほとんどなかったのですが、はじめは戸惑うことばかりでした。しかし、活動を重ねていくうちに自分なりの接し方を見つけ、それによって利用者さんの感情を率直に表した素直な反応を見るのが楽しくなっていました。

とに重点を置いて、企画を考え、実施しました。障害の程度もさまざま、できることにも差があるので、その点が最も重要で難しいところでした。ボランティアという身でありながら責任ある仕事を任せていただいたことは、緊張もしましたがとても嬉しいことでした。このように責任ある立場を務めたことで、私は経験と自信を得ることができ、とても成長できたと感じています。現在はその経験を基盤に、他の施設や団体でもボランティアを行っています。

ボランティアを通じた人との関わりの中で、図書館に関するお話を伺う機会がありました。知的障害者は、その障害特性から読書へのニーズがあっても、図書館になかなか連れていけないというものでした。私は文学部で図書館情報学を学んでいます、そのお話を聞いて、図書館の知的障害者サービスについて興味を持ちました。そこで、図書館における知的障害者サービスにどのようなものがあるのか、そのサービスが図書館でどれほど実施されているのかについて調査し、その実態を明らかにすることを研究テーマに、ゼミ論を執筆しています。

「ボランティアなんてお金ももらえないのに……」といった意見もあります。しかし、ボランティアを通して、未来につながるもっと大事なものを私

自身は得ることができました。先ほども述べた経験や自信はもろろんのこと、本当に些細な事ですがゼミ活動につながったり、就活において今まで考えたこともなかった福祉業界というものに興味を持つきっかけにもなったりしました。また、ボランティアを通して知り合った方々とは今も関係が続いています。このようにボランティアの経験はどのような形であれ、さまざまな新しいつながりをもたらしてくれているという点で、いい影響を与えてくれています。これはお金以上に価値のあることだと私は思います。とてもありがたい言葉かと思いますが、実際にこれを経験し、身をもって実感しました。最後になりますが、このような経験を与えてくれたサークルにはとても感謝しています。そして、残りの学生生活も、自分の更なる成長のためにボランティアを続けていきたいです。



サークルの仲間たちと